

清水合金製作所

補強部材シリーズ

数珠つなぎ④

九州営業所主任 三並 真也 氏



イチオン!

業務負担の軽減に貢献を
補修弁のフランジ部を補強

九州営業所の三並真也(なおや)主任の営業モットーは、顧客の業務負担を軽減できる提案を心がけること。「お客様がどのような課題を抱え、どこにニーズがあるのかを常に考えながら営業しています」と開口一番。担当エリアの福岡県南部、長崎、大分、宮崎の各県内を広く飛びまわる。水道事業者への製品PR、販売店と発注案件に関する情報共有、お客様からの問い合わせに対する対応…など、多様な業務に勤しむ毎日だ。

「管路施設の老朽化が進むなか、バルブの老朽化対策を望む声を事業者職員から多く伺っていました」と話す三並主任が紹介するイチオン製品は、「補修弁補強金具」。水道用補修弁のフランジ部を上下から挟み込むように固定し、補強する。あらゆるメーカーの補修弁に設置可能で、経年劣化などが原因となり、弁箱接合部のボルトが破断する漏水事故を防ぐ。

「専用工具を使うことで、弁室に入ることなく通水したまま施工が可能です。地上から操作でき、容易に脱着できるのが一番のメリットです。工数も少なく、施工性が優れているとお客様から喜びの声を頂くたび、営業マンとしてやり甲斐を感じます」と笑顔を見せる。

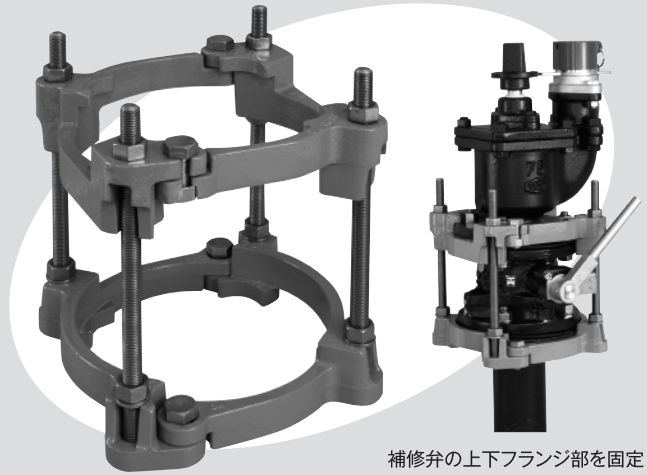
また、補修弁と接続されている消火栓や空気弁、本管側のT字管も合わせた縦配管の補強にも活用できる点も大きな特長だ。

同製品は令和2年にリリースされ、採用実績が着々と増えている。福岡県の小郡市、久留米市、大刀洗町の2市1町で構成する三井水道企業団もその一つ。令和4年度に初採用した。



自社製品の設置現場にも立ち会い顧客ニーズを汲み取る

補修弁補強金具



補修弁の上下フランジ部を固定

同企業団では平成4年布設の送水管の補修弁で3回漏水が発生。老朽化対策に頭を悩ませていたところに三並主任から提案を受けた。管工事組合関係者への施工指導やフィールドテストなどを経て、本採用に至る。

令和4年に30カ所、翌年には9カ所に設置し送水管を補強した。今年度も平成13年布設の管路への設置を予定しているという。

同企業団の担当者は「弁自体が開かないようにしっかりと補強できています。当初、メーカーによってはフランジの大きさに誤差があって設置できないケースもあったのですが、迅速に改良をして頂きました。田畑の近くなど、腐食しやすい土壌に埋設された管に設置しています」と説明する。

三並主任はこの採用事例に「弁室を解体せず、掘削することもなく、費用を抑えて補修弁の補強ができるということで、事業者様、組合員様から高く評価いただきました。組合員様への施工指導は当社の技術員と一緒に行いました。お客様のニーズにぴったりと合致し、喜んで頂けたことで採用に繋がったのだと思います」と振り返った。

今後も担当エリアで積極的に営業活動に励む。「補修弁補強金具をはじめ、多種多様なお客様の困りごとの解決に貢献できる営業マンを目指して日々邁進したいですね」と抱負を語った。



通水したまま地上から脱着できる



弁箱を解体せず、掘り起こさず、工数も少なく、費用も削減できる「補修弁補強金具」は、業務負担の軽減に貢献する、をまさに体現した製品と言える。老朽化する水道施設の更新需要が年々増加するのに反して、技術者や作業員などの現場の人手不足が叫ばれる昨今、業務負担の軽減は水道事業者が抱える喫緊の課題だろう。そんな悩みに寄り沿い、新製品を生み続ける。金具一つに、時代の変化やニーズに合わせて水道事業の課題解決を図らんとする清水合金製作所の真摯な姿が見てとれる。